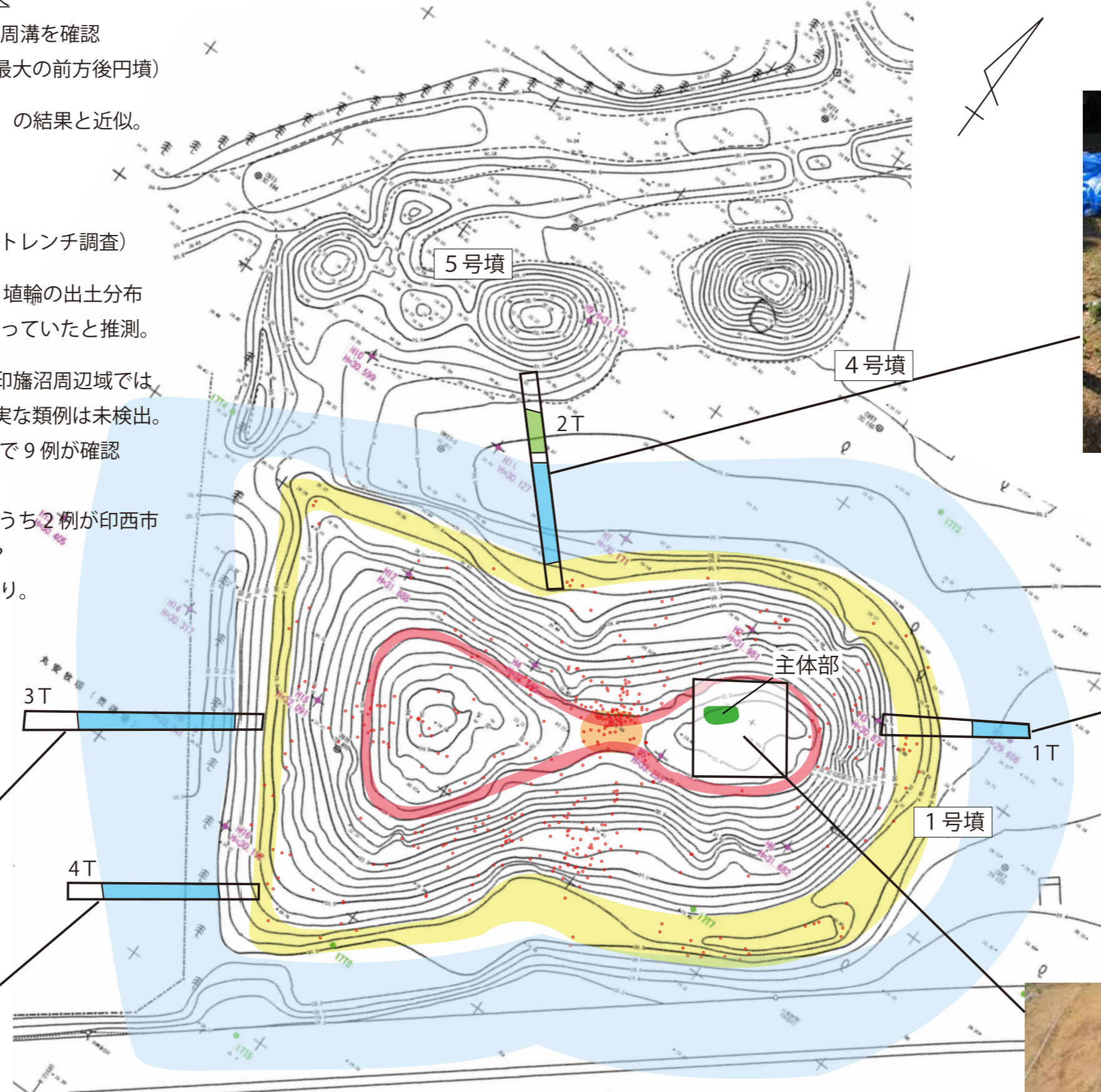


平成30年度 道作1号墳（第2次）発掘調査成果

- 古墳南西部（第3・第4トレンチ）で幅10m程度の周溝を確認
⇒道作1号墳の推定全長66m（現状印旛沼西岸域で最大の前方後円墳）
- 南西部周溝の下面は地中レーダー探査（昨年度実施）の結果と近似。
⇒周溝部においても探査の有効性が立証
- 周溝の形状 従来の想定…盾形
今回の調査結果…墳丘相似形（第2トレンチ調査）
- 墳丘部より多量の埴輪片が確認（すべて円筒埴輪）。埴輪の出土分布図からは墳頂部に1列、墳裾部に1列の埴輪列が巡っていたと推測。
- 前方後円墳の後円部墳頂に箱式石棺を埋置する例は印旛沼周辺域では吉高山王古墳（石棺の抜き取り痕が確認）のみ、確実な類例は未検出。
※ただし利根川（鬼怒川）南岸で5例、霞ヶ浦沿岸で9例が確認
⇒「香取海」圏における墓制か？
埴輪を伴う後期古墳は千葉県域ではわずか3例（うち2例が印西市内）。墳丘埋葬は墳裾埋葬（常総型古墳）に先行？
⇒古墳の築造時期は6世紀中ごろまで遡る可能性あり。



2号トレンチ完掘状況



1号トレンチ完掘状況



3号トレンチ完掘状況



4号トレンチ完掘状況



後円部墳頂石棺出土状況

	1号墳周溝範囲（推定）		埴輪列 上段（推定）
	1号墳周溝検出範囲		埴輪列 後円部墳頂（推定）
	5号墳周溝検出範囲		埴輪列 下段（推定）
			埴輪片

市道00-111号線
S=1/300